

○13期Kさんから添付ファイルにてご発言をいただきましたので、  
2通に渡ってご紹介します。

<メール文>

お世話になっております。

以下、二点添付いたします。

1. 3月30日に配信された引戸 充さんの意見&返答に対する意見
2. 4月7日に配信された総会 ご意見と返答3に対する意見

よろしく願いいたします。

みなさまのご健康をこころよりお祈りしております。

K (13期)

<添付ファイル>

**3月30日に配信されたDさんの意見&返答に対する意見** (下線部分は都支部より)

私は小学校の先生にお茶について学んでもらい、授業で伝えてもらう事が、日本茶の普及という観点で非常に有効で効率的な方法だと思いません。

先生の質もピンキリですし、異動もあります。

それに資料にも書かれているとおり、子供は大人と興味を持つポイントが違います。

例えば「お茶は作り方の違いによって緑茶、烏龍茶、紅茶の3種類があります。」(インスト)  
「何で一」(児童)等。

確かに淹れ方の手順だけなら覚えてもらって、教えてもらうことはできると思います。

しかし、正確なお茶の知識、情報を伝えるという点では疑問です。日本茶インストラクター、アドバイザーが専任で行った方が良いと思います。

(日本茶インストラクターの資格を持った家庭科の先生がいれば最強だと思いますが。)

私が有効かつ効率的だと思う方法は、保護者に教えるというものです。

保護者参観日に食育授業を行うと、保護者の方が子供より興味を持って話を聞いてくれますし、積極的に質問もしてくれて、一定の手応えを感じます。

日本茶インストラクターのみなさんは、何をもって『日本茶の普及』とみなしているのでしょうか。ひとことに普及と言っても、人によって意見は様々でしょうが、まずは消費者にお茶を買ってもらわなければなりません。

子供たちに急須で淹れる日本茶の文化を伝えることは、素晴らしいことだと思います。

でも財布を持っているのは親です。本当はセットで行うのがいちばん理想的だと思います。

保護者に対して啓蒙活動を行うこともまた、意義のあることだと思います。